



「メノポハンド」について

整形外科・関節再建外科

岡本 駿郎

「ものを握ると痛い」「朝のこわばりがある」などの訴えが更年期前後の女性に多く認められます。これまでは腱鞘炎（ばね指）や手根管症候群などの疾患として治療されてきましたが、近年の研究や調査から、エストロゲンをはじめとする体内ホルモン環境の変化を背景に発症することが分かってきました。そのため、2022年に日本手外科学会より、こうした女性の手の疾患の総称として「メノポハンド」と呼ぶことが発表されました。メノポハンドとは“menopausal hand(更年期の手)”の略称です。

検査により、似たような症状を引き起こす関節リウマチや膠原病などの疾患が除外された場合は、漢方薬やホルモン補充療法（適応となる婦人科疾患を有する場合のみ使用可能）などの治療を早期に開始することで、症状の改善が得られやすくなるとされています。

また、メノポハンドの認知拡大に伴い、

最近の研究や治療の結果から、一般の薬局でも販売されている大豆イソフラボン由来の成分「エクオール」

が注目されています。一定の効果が報告されているため、試してみるのもよいかもしれません。

手の痛みやこわばりなどの症状でお困りの女性は、お気軽にご相談いただければ改善のお力になれるかと思います。



婦人科検診について

当院健診センターでは、健康診断やドックに関し様々なプランをご用意し、追加でオプション検査を選択できるようご提案させていただいておりますが、さらに健診を受けやすくするために婦人科検診だけ単独で受けられるプランをご用意しております。

婦人科検診を知っていても「時間がとれないから」「何も症状はないから」「恥ずかしいから」「痛いイメージがある」などの理由で、いつかは受けようと後回しになっておられる方も多いと思います。定期的に婦人科検診を受けることで、子宮頸がんや子宮体がん、乳がんなどの早期発見につなげることができます。また婦人科検診での経膈超音波(エコー)検査を受けることで、子宮筋腫、子宮ポリープ、卵巣腫瘍など子宮や卵巣に関する病気の発見につながります。自覚症状がなくても定期的に検診を受けることが推奨されています。

子宮頸がん検査、子宮体がん検査、マンモグラフィー検査、乳腺エコー検査があり、どの検査をするか選択できます。お待たせしないよう全て午前中の予約検査となっており1時間程で終了します。ただし、乳腺エコー検査をご希望される場合は午後の予約となりますので、お電話にてご相談ください。

各検査については、それぞれの専門医が正確に診断を行い結果報告をさせていただきます。検査結果は、後日郵送でのご報告となります。また、検査結果にて精密検査(二次検査)が必要となった場合、当院に受診することができるよう案内文を添えて郵送いたしますので、安心して検診を受けていただきたいと思います。

ご自身の健康維持のため、定期的に婦人科検診を受けることで安心して日常生活を送っていただくきっかけになればと思います。

ご予約に関すること、ご不明な点やお聞きになりたいことなど、当健診センターまでお気軽にお問い合わせください。



富山市民病院 健診センター 076-422-0726 (直通)
予約受付時間：10：00～16：00

研修・講演・学習会のご案内



1. 地域連携症例検討会（ハイブリッド開催）

日時：10月13日（火） 19：00～20：00

場所：当院3階 講堂

内容：

1) 症例検討

『当院でのケサンラ使用状況について』

精神科 宮津 健成

2) ミニレクチャー

『顔面けいれん・三叉神経痛に対する微小血管減圧術』 脳神経外科 毛利 正直

機能的脳神経外科とは、直接生命を脅かすものではありませんが日常生活に支障をきたす各種の神経機能異常を外科的処置で治療する分野です。当科では顔面けいれん、三叉神経痛に対して微小血管減圧術を行っています。顔面けいれんは、眼輪筋や口輪筋などの顔面筋が発作的、間欠的に反復して収縮するものであり頭蓋内血管による顔面神経が原因で、三叉神経痛は一側の顔面に発作的激痛を繰り返すものであり頭蓋内血管による三叉神経の圧迫が原因です。動脈硬化による頭蓋内血管の蛇行により罹患神経が圧迫され症状が出現することが多く、発症年齢の平均は50歳前後です。手術は全身麻酔で行い、患側の耳介後方を部分剃毛し7cmの皮膚切開、3cmの開頭、硬膜を切開し手術用顕微鏡を使用し責任血管を確認し罹患神経から離し本来走行した位置に移動させます。責任血管が再び罹患神経を圧迫しないようにフィブリン糊で固定します。合

併症の予防と減圧効果を確認するために術中に脳神経モニタリングを行っています。術中に頭蓋内血管を固定するフィブリン糊は当科では自己フィブリン糊を活用しています。自己フィブリン糊とは患者自身の血液から作成するもので、当院では2018年に北陸では初導入されたクリオシールシステム活用しています。具体的には手術の1週間前に患者自身が200mlの自己血採血を行い、手術までにクリオシールシステムを用いて自己フィブリン糊に精製し術中に使用しています。従来の生物由来製剤であるフィブリン糊は供血者由来の製剤であり、感染や宿主反応、供血者の不足、高額、善意に依存するなどの問題点がありますが、自己フィブリン糊はそれらの問題点を克服する画期的な方法です。当科での顔面けいれん・三叉神経痛に対する微小血管減圧術について解説します。

予告 11月の予定は下記のとおりです。ご参加をお待ちしております。

日時：令和8年11月10日（火） 19：00～20：00（ハイブリッド開催）

場所：当院3階 講堂

内容：①症例検討 1例（担当）産婦人科

②ミニレクチャー 1題（担当）脳神経内科

※例年12月は拡大版として開催しておりますが、今年度は通常の形式での開催を予定しております。
詳細につきましては、次号にてご案内いたします。

2. ダイアベティス研究会（旧：糖尿病研究会）

日時：令和8年10月15日（木） 17：30～18：30

場所：当院3階 講堂

テーマ：糖尿病あるある？検査でわかる（合併症リスクの可視化）

講師：当院検査技師



作：病院ボランティア 篠崎 佳子

術前薬剤師 外来 のご紹介

薬剤科 石川 見佳

薬剤科では7年前より周術期患者さんを対象に、入院前に服薬状況などを確認する術前薬剤師外来を行っています。患者さんからお預かりしたお薬、カルテ情報を元に①薬品鑑別、残数確認②主治医および麻酔科医からの指示確認③薬の整理、抜き取り・分別④患者面談⑤記録、各診療科へのフィードバック、かかりつけ薬局・病棟担当薬剤師との情報共有が業務の流れです。

月平均70～80件実施する中、約3人に1人は休薬を考慮するお薬を内服中です。術前中止薬全体に占める割合が増加傾向にあるSGLT2 阻害薬は、併存疾患により休薬期間が異なるため、より丁寧な患者情報の収集が求められます。

開設当初は、抗凝固薬やサプリメントの中止漏れを予防し、安全に手術を受けていただくことが主な目的でしたが、近年は残薬の状態からアドヒアランス不良やご自身での管理が困難と推察されるケース、入院を機に減薬を希望されるケースなどポリファーマシーの問題を入院前に把握する重要な役割も担っています。周術期ひいては入院前からの適切な薬物療法のため、地域の医療機関と連携して患者さんの支援に尽力して参りますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

手術を予定されている方で、下記のお薬を使用の方は薬剤調整が必要となる場合があります。

血液をサラサラにする薬 抗血小板薬 抗凝固薬など 出血のリスク	女性ホルモンに関する薬 低用量ピル、月経困難治療薬 骨粗鬆症治療薬の一部 血栓形成のリスク
免疫系に作用する薬 血管新生を阻害する分子標的薬 リウマチ治療薬の一部 喘息やアトピー性皮膚炎、 尋常性乾癬などの治療に用いられる 各種生物学的製剤 創傷治癒遅延のリスク	糖尿病治療薬の一部 ビグアナイド系、選択的SGLT2阻害薬など 慢性腎臓病治療薬、慢性心不全治療薬の一部 選択的SGLT2阻害薬 乳がんアシドシス・ケトアシドシスのリスク
その他 市販薬、サプリメントや健康食品 アルコール依存症における飲酒量低減薬など	

ご自身の判断で服用中止ならず、必ず医師の指示を守ってください。
必要な休薬が守られていない場合には、手術の延期もしくは中止になることがあります。

富山市民病院 薬剤科 2024.05

医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

10月

科 名	医師名	不在日	科 名	医師名	不在日
内 科	野 村 智	16日	精 神 科	島 滝	10月休診 代診 木曜初診→長谷川 金曜再診→宮津
	水 野	1日、22日、23日	小 児 科	和 田	9日、16日
	深 川	22日		今 村	19日
	高 嶋	28日		中 橋	1日、2日
	稲 垣	26日	形 成 外 科	宮下松	15日、16日
	立 村	26日	皮 膚 科	大 石	8日、9日、30日
外 科	宮下知	16日	産 婦 人 科	長谷川徹	9日
	佐々木	14日	麻 酔 科	松 浦	8日
脳 神 経 外 科	毛 利	21日、23日	泌 尿 器 科	高 瀬	2日
	山 野	30日		新 澤	7日
歯 科 口 腔 外 科	石 坂	26日、27日、28日、29日、30日			

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。
TEL 076-422-1112(代)内線2168

編集後記

昨年大ヒットした映画「国宝」に影響され、いつか日本の伝統芸能を生で観てみたい、でも言葉とか難しそう…と思っていたところ、偶然に、子どもや初心者にもわかりやすく、解説付きで上演する狂言会があると知って、今年、人生初の狂言を観に行った。

上演前にストーリーを解説してくれ、笑いどころや注目ポイントも教えてくれるので（しかも演者はイケメン3兄弟!）、初心者の自分でも楽しく観ることができた。

狂言は、庶民向けの娯楽として発展した歴史があり、人間のだめなところやずるい部分を、面白おかしく演じて笑わせてくれる。現代なら「お酒を飲み過ぎて失敗…だから深酒は良くない」というオチがつくところ、そういう教訓的なことを言わないのも、なんだかおもしろい感じがして良い。舞台装置やマイクなどもなかった時代、遠くの観客にも声が届くよう、独特の節をつけた台詞回しや、全力の顔芸…なるほど、狂言って現代で言うコントなんだ!と、気づいたら、今年3回目の狂言鑑賞をしていた。

600年前から続くテップンのコント、皆さんも機会があれば、ぜひ!

ふれあい地域医療センター 赤川 幸子



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。
送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1112 (代) / FAX 076 (422) 1154

メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp

Instagram でも
情報発信中!



ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室: メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp